

### TRANSITION TO HEALTH (078)

## “ 新型コロナウイルス感染 ④ ”

歴史に学ぶ

10分で解る “ インフルエンザワクチンの危険性・無効性 ” その1

はじめに

コロナ感染の第2波・第3波が必ず来ると危惧されている今、ワクチンの早期開発・供給が望まれている。しかし、同じRNA一本鎖のウイルスであっても、麻疹・風疹などのワクチン（全粒子・弱毒化）は有効であるが、現行のインフルエンザワクチン（HA蛋白のみ・不活化）は無効・危険であることを本通信で何度もお伝えてしてきたので、再度読み返しておいて欲しい。ノーベル生理学・医学賞の本庶佑先生も、ある報道番組の生放送で、ワクチン開発への期待に対するコメントの中で「・・・今までもインフルエンザワクチンが効いていたという感触はない・・・」とコメントされていた。医師・研究者ならば、現行のインフルエンザHAワクチンに効果が期待できないことは常識と考えているはず、と納得したと同時に、本庶佑先生の“業界に忖度しない”ご発言がとても新鮮で頼もしく感じられた。

インフルエンザワクチンに 効果なし・・・を証明した素晴らしい国・日本

かつて日本は1962年から小中学生への集団接種を始めた。しかし、いわゆる『前橋レポート』をきっかけに、全国で『インフルエンザワクチンは要らない』市民運動が展開され、1994年予防接種法が改定され、集団接種は中止に追い込まれた。今号では、アメリカでのワクチン政策の失敗を含め、インフルエンザワクチンの歴史を振り返ってみよう。

### ★ 危険なプレパンデミックワクチン・・・米国の大失敗（1976年）

1976年2月5日、米国ニュージャージー州の陸軍訓練基地内で豚インフルエンザが発生し、19歳の二等兵が、発症から24時間以内に死亡した。時のフォード大統領（右写真）は同年3月24日、緊急予防接種計画を宣言し、8か月後の1976年10月から予防接種を開始したが、著しい副作用のため、接種開始2ヶ月半ほどの12月16日に中止に追い込まれた。アメリカ人4,565万人に接種した時点で、副作用のギラン・バレー症候群が通常の7倍以上の565人に発症し、重篤な30人以上が2か月以内に死亡した。また、30人の高齢者が予防接種後数時間以内に「説明不可能な死」を遂げていた。推定感染者数は500人、発症12人、97%以上が不顕性感染。死者は最初の二等兵ひとり。医療訴訟だけが残った。ワクチン接種の副作用で60人以上が死亡したという大失敗が原因でフォード大統領は失脚したといわれる。



### ★ 米国のCDC, NIH 調査のため来日 『日本におけるインフルエンザ予防接種政策と実際』

フォード大統領のワクチン政策の大失敗の3年後（1979年）、米国のCDC(疾病予防管理センター)とNIH(国立

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6丁目8番1号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

http://www.kenshin-shizuoka.net

E-mail:info@kenshin-shizuoka.net

衛生研究所)は、「学童に集団接種をしている日本」に調査のために来日した。翌年に報告された調査結果は「子どもたちへの『集団接種は効果がある』という**研究データ**は**日本には何もなかった**。日本では**空想的な効能を期待**してインフルエンザワクチンを子どもたちに毎年接種しているのだが、アメリカで日本と同じことを実行する**価値はない**」(Influenza Immunization Policies and Practices in Japan)(The Journal of Infectious Diseases(1980) 141(2):258-264)と報告されたのでした。(右写真)。

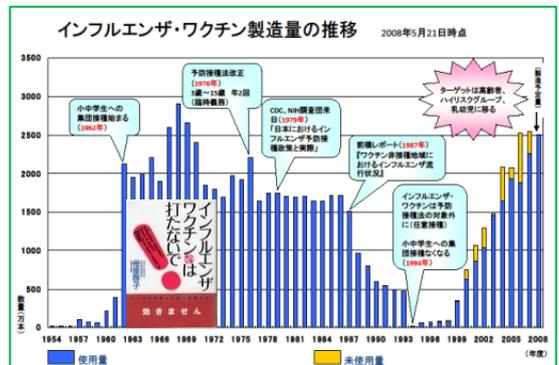


### ★ ワクチン**非接種**地域におけるインフルエンザ流行状況 (前橋レポート1987)

1979年、群馬県前橋市の一児童の**ワクチン事故**をきっかけに、前橋市は**急遽**集団接種を**中止**し、前橋市医師会、国立公衆衛生院の医師らが研究班を結成し調査を開始した。ワクチン接種非実施の前橋市、安中市、ワクチン接種実施の高崎市、桐生市、伊勢崎市の**5市**の小・中学生**7万5,000人**を対象に1980年から**5年間**にわたり**疫学調査**を実施し、**1987年**にその結果が報告された。『**ワクチンを打っても打たなくても罹患率、学級閉鎖率等に差は無く、ワクチンに全く効果がない**』ことが証明された。伊勢崎市では昭和59年と60年の2年間、半数以上の児童が**2回接種**していたにもかかわらず、非接種の前橋市・安中市より逆に**罹患率が高かった**。また、前橋市5校の小学生600人に対し、年2回5年間にわたり**抗体検査**を実施したところ、5人に一人『**20%に不顕性感染**』があることがわかった。その後、全国で『**インフルエンザワクチンは要らない**』**市民運動**が展開され、**1994年**予防接種法は改定され、**集団接種は中止**に**追い込まれた**のであった。日本は**世界で唯一**、インフルエンザ流行に対する**大規模かつ長期間**(5年間)にわたる**疫学調査**を実施した国であり、『**インフルエンザワクチンに効果なし**』と結論づけた素晴らしい国であった。

### ★ 集団接種中止後、新たなターゲットは『**3歳未満・高齢者・基礎疾患を有する者**』にシフト

日本は、～～他者に感染させないという**社会的予防・社会防衛**のために、健康な学童にまで**強制接種**し、その結果、多くの**副反応被害**を出してしまったが、それに対し、大規模かつ長期間にわたる**疫学調査**を実施し、その結果、**1994年**に**集団接種を中止**に追い込んだ～～という素晴らしい歴史を持っている。この歴史に学んでほしい。今でも毎年、ギラン・バレー症候群や脊髄炎などの**重篤な副反応**が厚生労働省に報告されている。インフルエンザワクチンに『**社会的予防効果なし**』とする過去の研究、いわゆる『**前橋レポート(1987年)**』は小児への集団接種を対象としていた。小児への集団接種が無効であったという結論を受け、1990年代後半からは、**副作用ばかりで効果の無いはずのワクチン接種**の新たなターゲットは**高齢者**、**重篤な基礎疾患を有する者**、さらに**乳幼児**へとシフトされていった。当時、日本の4大ワクチンメーカーが厚生省に泣き付くと、厚生省のお役人は、「3歳から65歳には効果は無いかもしれないが、3歳未満・高齢者のデータは無いのだから、ターゲットをそちらに移したらいいではないか」という風にも的確に(?)助言したとかしなかったとか。これによりワクチンメーカーは息を吹き返し、現在に至っているということである。



健康通信 No.6 (2013年2月) に掲げた図の縮尺図

### ★ **インフルエンザワクチン小児集団接種を中止**に追い込んだ**ママさんパワー**は何処へ?

30年前のお母さんたち・ママ<sup>ども</sup>たちは強く、賢明だった。皆さんはまさかワクチンを打ったりはしていないでしょうね。健康なわが子に打たせたりもしていないでしょうね。現行のインフルエンザHAワクチンには、人体に**発癌性**のある**ホルマリン**(ホルムアルデヒド)、保存剤として**チメロサル**という**神経毒**である**水銀製剤**、製品によっては**ポリソルベート80**という“**不妊誘発**”疑惑が囁かれる物質も入っている。**毒物**の入った**劇薬**で**重篤な副作用の危険性**があるので、接種には同意書が必要なのである。2016年1月のあるテレビ番組で、国立感染症研究所のH先生が、「血液の中に(ワクチンでできた)抗体があっても『**ウイルスに攻撃が届かない**』、そして『**増殖して症状が出る**』とはっきりと述べ、ワクチンだけでは“**感染も増殖も阻止できない**”ことを、図を用いて明確に説明していた。ワクチンでは「感染」も「増殖」も、もちろん「重症化」も阻止できないので、多くの医師は**NA阻害薬**などの「抗ウイルス薬」を処方するのである。「新型コロナウイルス」に対して、早急な「ワクチン開発」に期待するよりも、感染しても重症化しないための「**非特異的な免疫力**を培う生活習慣」の確立、「持病を持たない」ことが大切である。(次号につづく)